



野菜のとう立ちと対策について

キャベツやダイコンといった野菜の茎が伸びて花が咲くことをとう立ち(抽苔)といいます。とう立ちすると花芽に栄養がいかってしまふ影響で、キャベツのような葉菜類はうまく丸まらなかったり、ダイコンのような根菜類は根が太らなくなるなど、食用・販売用に向かなくなってしまう。品質の低下を防ぐために、とう立ちの対策をしていきましょう。

とう立ちする原因と野菜名

要因		品目	
①日長	長日(1日の日長が一定時間より長くなること)	ホウレンソウ、タカナ、シュンギク	
	短日(1日の日長が一定時間より短くなること)	キュウリ、サツマイモ、シソ、イチゴ	
②気温	低温(15℃以下)	種子から	ダイコン、カブラ、ハクサイ、コマツナ、エンドウ、ソラマメ、ミズナ
		一定の大きさの苗	キャベツ、ブロッコリー、ネギ、タマネギ、ニンニク、ニンジン、パセリ、ゴボウ
	高温(15℃以上)	レタス、エダマメ、スイートコーン	
③栄養(中性植物)		トマト、ナス、ピーマン、トウガラシ	

とう立ちの要因

主なとう立ちの要因は、
 ①日長(1日の明るい時間の長さ)の影響を受けるもの。
 ②気温の影響を受けるもの(気温15℃が低温と高温の境の目安です)。
 ③日長・気温に関係なく、ある一定の大きさに成長するととう立ちするもの。
 以上の3つがあります。

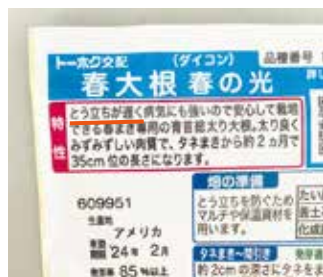
とう立ちの対策

●とう立ちのコンパニオン品種を選ぶ

ダイコンなどの種子から低い気温でとう立ちする野菜では芽を出す準備の遅い品種を選び、キャベツなど一定の大きさの苗からとう立ちする野菜では低温や日長による肥大の影響を受けにくい品種を選ぶと良いでしょう。これらとう立ちしにくい品種は晩抽性品種と言われています。

◇晩抽性品種の例◇

種袋の表や裏に「とう立ちが遅い」「晩抽性」などと書いてあるものを選びましょう。



↑ダイコン「トップランナー」(タキイ種苗)



↑ホウレンソウ「晩抽サマースカイ」(タキイ種苗)



種を蒔く時期の目安

●種の早まきを避ける

ダイコンなどの野菜は種から低温に感応するので極端な早まきは避けましょう。種袋の裏面に地域別の適切な種をまく時期の目安が書いてあるので参考にしてください。

●保温する

種から低温に感応する野菜は種まき後に保温をしましょう。被覆資材をかけることで夜間の低温の緩和、昼間の温度上昇が期待できます。

●べたがけ栽培

畝の上に直接被覆資材をかける方法です。野菜が育つゆとりを持たせて裾を隙間なくおさえるだけなので省力的です。

●トンネル栽培

トンネル用の骨材を使って空間ができるように被覆資材をかける方法です。設置の費用と労力はかかりますが保温効果はべたがけよりも高いです。

べたがけ栽培



トンネル栽培